



与那原東小だより

令和8年6月25日(木)
与那原町立与那原東小学校
文責 校長 砂川 充

学校教育目標 ○進んで学びよく考える子 ○ゆたかな心の子 ○進んで実行する子 ○たくましい体の子

平和月間 講話・遺物展示・読み聞かせ 「児童・生徒の平和メッセージ展」最優秀賞

与那原東小学校では、6月1日から6月19日までを平和月間として取り組みを行いました。低学年は「戦争」がどのようなものかを知り、興味や関心を持たせる。家族や友達、周りの人たちを大切にする心を育ませることをねらいとしました。高学年は、地元沖縄で起こった戦争が、どのようなものであったかを知り、興味・関心を持たせる。戦争を繰り返さないために、自分たちができることは何だろうか、と考える手がかりをつかませる。周りの人に対して感謝する気持ちを持ち、大切にする心を育ませることをねらいに学習を進めました。

4年生、5年生、6年生には、伊良部孝先生を講師としてお迎えし、沖縄戦についての平和学習の講話を行いました。さらに、6年生は与那原町での戦争について、津多則光さんから話を伺いました。子どもたちは真剣な表情で耳を傾け、平和について深く学んでいる姿が見られました。

低学年は読み聞かせや、DVDを視聴してねらいに迫る学習を行いました。

また今年度は、図書室前に「与那原町戦争パネル展」、図書室内で「戦争遺物展」を開催し、子どもたちは興味を持って見学していました。



戦争遺物展



伊良部孝先生



津多則光先生



令和八年度「児童・生徒の平和メッセージ展」 詩部門
小学校 高学年の部 最優秀賞
私の六月二十三日
与那原東小学校六年 天久 和呼

私は考えた
「戦争」って何だろう
きつと苦しかったんだろうな
つらかったんだろうな

私は考えた
「平和」って何だろう
今を苦しまずに生きれること？
毎日を楽しく生きれること？

私は思った
「平和」って何だかあやふやだ
私は覚えていた
あのとき聞いた あの言葉を
戦争を体験した彼女の
「あのとき、友人と一緒に死ねばよかった」
戦争を生き抜いた彼の
「自分だけ生き残ってしまった」
生きていることへの後悔と申し訳なさを
私は疑問だった
誰かにみんなあたりまえにある権利
生まれて生きる生きていたい
それは人も自然も動物も
あたりまえに歩む「命」の道筋
でもそれが壊れていくのが「戦争」なんだ

私はいま、
友達と一緒に遊ぶことが楽しい
学校へ行き新しいことを学ぶこと
琉球や三線を習って
沖縄の歴史や文化を知ることが好きで
祖父や祖母とおでかけしたり
家族みんなでおいしいごはんを食べる
そんな毎日が大好きで
明日が来るのが楽しみで
こんな日々が未来まで続いてほしいと願う
私はいま生きていることが楽しい

私は想像してみる
八十年という時間を
あの日のあの日
たくさん命が失われ
焦土と化したこの島を
それから
アメリカ統治と日本復帰
変わったものと変わらないもの
この島と
ここに生きる人々の
歩んできた時間を
そうして感じる
ここまでつむがれてきた
命の尊さ
平和への想いを

私は願う
この島の未来を
あなたと笑い 生きている
今日がずっとこの先も
変わらず続いていくことを
私は生きる
生きて感じて考える
これが私の六月二十三日
沖縄慰霊の日
平和への詩

